春風秋霜 8月号

令和５年８月 23 日
島田市教育委員会だより
教育長　山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む　　佐藤一斎

1　静岡県立ふじのくに国際高等学校の説明会に多くの方が参加しました

志太榛原地区に新しい構想の高等学校を作ろうということで、静岡県教育委員会は、金谷高等学校のところに、静岡県立ふじのくに国際高等学校を作りますということを以前紹介しました。

2024 年４月から開校する学校ですが、５月 21 日に夢づくり会館で第１回の説明会が実施されました。中学３年生の生徒と保護者が約 550 名集まったそうです。島田市教育委員会の担当者も参加しました。静岡新聞によると、「開校準備委員長の山田正訓金谷高等学校校長は、多様性と自由を尊重する新しい学校。イメージを膨らませてほしいと挨拶をした」と書かれていました。参加した生徒や保護者は、新しい学校に自分の夢を重ねていたのではないでしょうか。また、７月 30 日に実施された第２回学校説明会の参加希望者が 600 名以上となり、オンラインでの説明会配信参加申し込み者数も、大変多かったと聞きました。

私も、You Tube で公開している「ふじのくに国際高等学校」の映像を見ましたが、率直な感想は、「今までと違う高校。新しいことが、何かできるかもしれない。」です。私が、中学生でどこの高校に行こうか迷っているときに、自分にとって何かできそうな高校が目の前にあったら、ぜひ入学してみたいと思うのではないかと思いました。以下に、新しいフレックスハイスクールの紹介をしたいと思います。

ふじのくに国際高等学校は、大学のように、自分のペースで登校時刻や時間割を決められる多部制単位制の高等学校です。生徒一人ひとりの学習スタイルやニーズを尊重し、新しい時代に対応した教育を通して、地域社会に貢献できる人材を育成する学校です。特徴の一つは３部制をとっていることです。全日制のように、朝から通学して８時間目まで勉強して帰ってもよし（Ⅰ部）。朝は時間に余裕が欲しいという人は、昼から通学してもよし（Ⅱ部）。昼間は別の活動に集中したいので、夕方から通学してもよし（Ⅲ部）。というように時間も選択できるようになっています。更に、自分が所属する部以外の授業を選択することもでき、３年間で卒業してもいいし、４年間かけてゆっくりと学んで、卒業することも可能です。

普通科の単位制高等学校ですが、一般的な教科に加えて、商業、家庭、体育、音楽、美術、書道等の専門教育に関する選択科目も用意されており、様々な進路希望に対応できるようになっています。大学のように自分が必要だと考える単位を選んでいくというのも楽しいですね。また、豊かな自然環境や観光資源を活用して、グローバルかつ多面的な視点で探究的な学びを展開することができるいということは、とても魅力的なことです。一般的な学習をイメージするだけでなく、自分で学習したいことを自ら選択して学習すると、きっとやる気が違うと思います。

「自ら考え、活用できる力」を身に付けていれば、どこに行っても大丈夫だと考えられます。そのために、探求的な学びがとても有効になってきます。

また、ふじのくに国際高等学校の大きな特徴の一つは、世界的に評価の高い教育プログラムである「国際バカロレア教育」を 2026 年に導入することを目指している

ことです。国際バカロレア教育とは、国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムのことです。国際バカロレア（IB：International Baccalaureate)は、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置されています。

肘かけ椅子

「新型コロナウイルスが気づかせてくれたこと」

教育総務課参事　高木　雅彦

新型コロナウイルス感染症の最初の患者は、中国武漢で令和元年 12 月に発症されたとされています。その翌年２月に日本で最初の死亡例が報告され、香港から日本に向かった大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で多数の感染者が確認されたことは、テレビ等で頻繁に放送されていました。その後は、各地でクラスターが発生し、令和２年２月には、安倍首相から全国小中学校の一斉休校の要請があり、島田市では４月から約１か月間の休校になりました。児童生徒は学校が休校になって喜んだ人もいたかもしれませんが、今まで経験したことがない見えないウイルスに怖しさを感じていた人も多かったのではないでしょうか。

令和２年４月から４回の緊急事態宣言が発令され、東京オリンピックは１年延期、飲食店の営業規制、イベントの開催規制、海外では都市のロックダウンが行われ、新型コロナウイルス感染者数は、日本だけでなく世界中で増えていき、日常の生活が一変しました。

この日常生活が変化したことをきっかけに、他人との接触を避ける技術の導入が進みました。飲食店（ファミレス等）のセルフオーダーや配膳ロボットの導入、リモート会議やテレワークの活用など、今までになかったことを急速に世の中に浸透させました。遠くの存在だと思っていた人と液晶の画面を通してすぐに会話できるようになったことは、ドラえもんの世界であり、近未来を体験しているかのように感じました。

このように長い通勤時間に悩まされてきた人や出張や残業などで家族との時間が取れなかった人たちには、新型コロナウイルス感染症対策による思わぬ効果がありました。

新型コロナウイルスの発生以前の私たちは、海外等の映像や写真を見ると、希少性のあるものや手の届かないものに価値を感じていた風潮があったように思います。新型コロナウイルスの影響により、海外どころか自由な外出が規制され、人と会うこともままならなくなり身近なものに目を向けるようになって「実は、自分のまわりに、こんな素晴らしいことがあった」ということに気付き、私自身は、その価値を再評価するようになりました。

また、令和２年度初めの一斉休校では、「普通の毎日があることの喜び」や「当たり前の生活の大切さ」を感じたと学校関係者から聞きました。

新型コロナウイルスが気付かせてくれたことではないしょうか。